医学部の面接小論文対策～医学部予備校エースアカデミー

▽面接回答の添削について

本資料を熟読した上で、希望者は以下の5つの質問に対しての回答を塾生ページの「面接添削フォーム」より申請してください。

添削してフィードバックをお送りします。

- * 提出後フィードバックの送信まで1週間程度かかります。
- * 提出は必須ではなく希望者のみとします。
- * 必ず本資料にある「回答文例」を参考に記載してください。明らかに自己流で記載していると判断した場合は添削を行いません。
- * いずれも面接試験でよく聞かれる質問です。受験本番の回答として相応しいレベルのものを求めます。(誤字脱字、不適切or稚拙な表現はNG)
- * 字数制限は特になし。本資料の回答例を参考に適切な文字数を考えて書いてください。(短すぎたり、だらだらと長いのはNG)

* 5つの質問

「医師、医学部を志望する理由」

「自分の長所、短所と医師に向いている理由」

「理想の医師像、医学部卒業後の具体的な医師としてのキャリア像」

「高校生活や部活動で力を入れたこと」

「医学部に入ったら何をしたいか」

* 注意点

5つの質問は、それぞれ単独で質問される場合が多いです。そのため、同じ内容を別の項目に含めて記載してください。

例:長所の項目と、高校生活に、それぞれ同じ内容を記載してOK。

▽面接への最低限の対策について

- ・上記の「よく聞かれる質問」への回答をあらかじめ用意しておく。
- ・各大学の志望理由の回答を用意しておく。
願書で志望理由を記入している大学では願書のコピーを必ずとっておきましょう。願書で志望理由の記載がない大学は一次試験に通過してから用意しても十分間に合うと思います。
- ・再受験生、欠席が多い人や特殊な事情がある人は回答を準備しておく

再受験生は、再受験をする理由
欠席が多い人は、その理由

面接で聞かれることが多いため準備しておきましょう。

・過去問集を参考にする

秋頃に、塾生ページに各大学の過去問や卒業生によるフィードバック等を掲載しますので参考するようにしましょう。

基本的には私立医学部は一次試験に通過してから、国公立医学部は受験が決まってから大丈夫です。

▽面接回答例

【1. 医師、医学部を志望する理由】

私が医師を志望する理由は、病気を患った人々に生きることへの希望を与えることのできる職業に就きたいと思ったからです。小学生の時に友人が難病を患ったことをきっかけに、健康な生活を送っていた人が突然病気を発症することにより、今までと全く違う生活を送らざるを得ない状況に愕然としました。友人と同じような境遇の人々に少しでも生きる希望を与えるため、自らの力で病気の診断、治療を行うことが出来る医師という職業に就きたいと感じるようになりました。

*再受験生は、「なぜ再受験してまで医学部に進学したいのか」もわかるように志望理由を記載しましょう。(大学入学後or社会人生活でのエピソードを記載する、など)

【2. 自分の長所、短所と医師に向いている理由】

<ポイント>

・自分の長所については、できるだけ実績としてアピールができる内容を挙げましょう。

(大会での受賞経験、高校生活で皆勤、部活動でキャプテン、委員会活動など)

重要:まずは自身の長所になる実績やエピソードを整理して箇条書きにしておきましょう。それから文章を書くようにしましょう。

・長所や実績は、「具体的な数値や名称」を入れて回答しましょう。

例 「10年ピアノを習ってきました」「高校3年間皆勤でした」「文化祭では500人以上の来客を達成できました」「○○大会で準優勝できました」など

私の長所はメンバーをまとめて活動を進めていく事です。

私は高校1,2年生の時、文化祭の模擬店で2年連続最高責任者を務めました。事前から入念に準備を行い、出来るだけメンバー全員の意見が反映するよう案を練りました。またサブリーダー、チーフと協力して企画のプレゼンテーションの準備やメンバーの

担当振り分けなどを行いました。文化祭当日は、販売開始前に全員で集まる時間を設けてメンバーに話をし士気を高めたことで、それぞれの役割を全うし、作業を円滑に進める事が出来ました。この経験を活かして、チーム医療の要となれるよう努力しようと思います。

私の短所は、皆の意見を反映する気持ちが強いために自分の意見を抑えてしまう事です。例えば、文化祭のサブリーダー、チーフとの話し合いの時に意見を言うことができず、後日友人に「是非会議で発言した方がよい」と背中を押してもらって次の会議で発言したところ、その意見が反映された、ということがありました。

この経験から、自分の意見を言わないことはチームにとっても自分にとっても良くないことだと学びました。いまでも自分の意見を抑えてしまいそうになることがありますが、「チームのためにも意見を提供すべきだ」と考え、発言するように努力をしております。

大学に進学してからも、ボランティア活動などを通じて、メンバーの意見を反映するだけでなく自分の意見も積極的に言うことを心掛けようと思っております。

【3. 理想の医師像、医学部卒業後の具体的な医師としてのキャリア像】

私は将来小児科医になりたいと考えております。

小児専門病院を見学をしたとき、小児科に様々な症状、年代の患者さんがいることを知ったことで、赤ちゃんから思春期まで成長する過程の患者さんに寄り添って関わり、あらゆる病気を診断することが出来る小児科医になり病と闘う子供達の支えになりたいと強く感じたからです。

小児科医になったら、中高5年間続けた部活で培った体力やコミュニケーション能力を強みとして、子供達からだけでなくご家族の皆さんからも信頼される小児科医になれるよう日々精進していこうと考えております。

理想の医師像は、医療技術に長けているだけでなく、患者さんだけでなくご家族にも慕われ信頼されるような医師です。研究熱心で常に最新の医療知識を身につけており、なおかつ患者さんを思いやる心を持つ医師になれるよう日々勉学に励み、ボランティア活動などを通じて人間としても成長していこうと考えております。

医学部卒業後は、貴学の小児科医局に入り、小児科専門医を取得したいと考えています。その後も小児科医として地域のこどもたちの支えとなれるような医師になりたいと考えています。

【4. 高校生活や部活動で力を入れたこと】

私は高校では部活動に力を入れていました。オーケストラ部に所属し、チェロを弾いていました。弦楽器は全くの未経験からのスタートであり、演奏技術の習得には困難が多くありましたが、粘り強く練習を継続し上達することができました。卒業生の指導の下、定期演奏会に向けて部員全員で曲を作り上げることに取り組んだ日々は楽しいばかりではなく、部員間で意見が衝突することもあり、共同作業の面白さやお互いを尊重することの重要性を学びました。また、演奏会に際しての会場の手配や広報活動、パンフレットの作成、卒業生の方々とのコミュニケーションなどは全て生徒が主体として担っており、中でも私は広報とパンフレット制作の責任者を務めました。膨大な作業をこなす中で、計画性や実務的な能力も養われたと思います。

【5. 医学部に入ったら何をしたいか】

勉学面では、勉学に励み、日々進歩していく医療知識を吸収していこうと考えております。また、英語の勉強に励みたいと考えております。受験勉強ではリーディングメインの勉強でしたので、リスニング、ライティング、スピーキングを含めた4技能の向上を目指そうと思っております。具体的にはTOEIC等の資格試験でスコアを伸ばしていこうと考えております。

勉強以外の面では、高校から取り組んでいるオーケストラを続け、全員で一つの音楽を作り上げる喜びを味わいたいと思っております。

▽面接回答例におけるポイント

- ・結論から述べている。
- ・結論を説明する根拠として、具体的なエピソードが述べられている。
- ・話に一貫性がある。

▽面接におけるNG例

・完全に沈黙してしまう

完全に沈黙してしまうと評価できなくなってしまうため、不合格にされてしまう場合があります。沈黙してしまう原因はシンプルで、「いいことを言おうとするから」です。(試験中にいい点数をとろうとすると点数が下がるのと全く同じです。)

いいことを言おうとする必要は全くなく、自然と考えていることを話せば問題ありません。

答えづらい質問であれば「少しお時間をください」「申し訳ありませんが存じません(わかりません)」など正直に回答すれば問題ありません。

・回答が質問の答えになっていない

質問への回答になっていない場合は大きく評価がさがる可能性があります。

特に、まとまりがない話をだらだらと話して結局答えになっていない回答は印象としては最悪の回答です。

面接回答例に示したように、質問への回答となる結論を簡潔に先に述べるのがとても重要です。

・質問に対して短く抽象的に答えてしまう

結論から述べることは重要ですが、抽象的な結論だけを述べてしまうこともよくありません。根拠となる具体的なエピソードを追加して説明するようにしましょう。

悪い例:「長所について教えてください」 →「責任感があることです」

短く抽象的に答えてしまうと面接官は次のどちらかの対応をします。

1. 厳しくつっこまれる

短く回答してしまうと、次に質問する内容は面接官に委ねられているため厳しい質問が飛んでくる可能性があります。

2. 次の質問にうつる

深くつっこんでくれず、テンポよく次の質問にどんどん移っていく面接官の場合、時間が大幅に余ってしまうため、予期せぬ質問が来る場合があります。どの大学でも受験生一人あたりの持ち時間が決まっているため、具体的に話すことで時間を使うようにしましょう。

▽話すときのコツ

・面接で頭が真っ白になってしまう人の多くの原因が、「面接で回答するために下書きした文字を思い出しながら話す」ことにあります。文字を思い出しながら話してしまうと、途中で質問を変えられたときや、少し変わった質問をされてしまうと臨機応変に対応できません。また、話すときもどこか棒読みのようになってしまいます。

コツは、「情景を頭に思い浮かべながら自由に話す」ことです。

例えば医師志望理由について、「小さい頃にかかりつけだった医師に憧れたことがきっかけ」という話しをします。そのときの情景を頭に思い浮かべます。そして、話すワンシーンを予め決めておきます。(例 実際に診察されているときのシーン 医師の先生の表情を思い浮かべながらなど。)後は、そのワンシーンを思い浮かべながら自由に話すだけです。文字を思い出しながら話すのではなく、情景を思い浮かべながら話しましょう。

・回答を終える際に、「以上です」と言う

質問に対する回答を終える際に、「以上です」と言うことで、回答し終わったことが面接官に伝わりやすくなります。

また、印象としてもよくなりやすいです。

▽小論文対策

下記のとおり、小論文がない医学部も多く存在するため、小論文がある大学を受験することが確定した際(一般入試であれば12月末や1月に入ってからでOK)に、過去問を調べたり、1回書く練習をする程度で十分です。

面接、小論文対策に下記の本を読んでおきましょう。あまり時間をかける必要はないので息抜き代わりに軽く目を通しておく形で十分です。

[書き方のコツがよくわかる 医系小論文 頻出テーマ20](#)

受験する大学の過去問をみて一度自分で文章を書く練習をしましょう。

特に文字数と時間制限が重要なので「字数を書く練習」をしておきましょう。

一次試験日に小論文が実施される場合はあらかじめ練習しておいてもよいですが、そうでない場合は学科試験に合格してからで十分です。(国立医学部は受験校が決まってから)

小論文の最大の対策は、
「指定の字数で、素早く書ける練習をする(実践編参照)」
ことです。

実践編のコツを習得した上で、通常は1回の練習で十分です。

* 小論文の添削は全く意味がない

前提として小論文は医学部の合否にほとんど関係していません。
例年、小論文で半分も書けなかった生徒様も正規合格しています。学科試験ができなければ小論文がどれだけできて、不合格です。

その上で、小論文の対策を行うとしても書く練習をすべきであって、添削には全く意義がありません。

英数理の学科試験の勉強に時間を使いましょう。

* 国立医学部の面接小論文

国立医学部

= 共通テスト+模試成績による出願時の判定、合格率

→ 合否は完全に判定どおりに

面接小論文はほとんど合否に影響しない

重要!

2025小論文の出題は

49大学のうち6大学のみ

(前期試験)

→「小論文対策が重要だ!」という致命的に間違った学校や予備校が多い

* 私立医学部の面接小論文

私立医学部

= 学科試験の一次試験に合格しないと、面接小論文の機会すらない

失敗例

・夏頃から面接小論文対策の講座を受講していたが、一次試験全滅

→面接小論文の機会すらなく浪人

▽面接小論文対策(実践編)

▽面接対策実践編

①「長所」「自己アピール」が最も重要！

面接の目的は、「その受験生がどういう人物か」を見るために行います。

みなさんも面接官の立場になってみてください。

例：

志望理由：「医師になって多くの患者さんに貢献したいと思ったからです。」

大学志望理由：「早期体験実習と国際交流に力をいれており、医師になるためにはそのような経験が役立つと思うからです(具体的なエピソードなし)」

長所：「コミュニケーション能力がある点です(具体的なエピソードなし)」

この受験生がどういう人物か、全くわからないと思います。

長所や自己アピールは、その名のとおり「アピール」することが大切です。

当塾の模擬面接でも、

「長所はコミュニケーション能力があることです」と答えた生徒様に対して、具体的な実績があるか確認してみると、

実は高校3年間皆勤で、さらに10年間水泳を続けていて、県大会で準優勝していた、ということがありました。

コミュニケーション能力なんてどうでもいいので、その実績をアピールすることが大切です。

まずは実績の棚卸しをしましょう。実績は具体的な数値や名称をいれることが重要です。

例 AとB、どちらがよい印象ですか？

A「水泳を続けてきたので体力に自信があります」

B「水泳を小学2年生から高校2年生まで10年間継続してきました。高校2年生のときには副キャプテンを務めて、団体戦で県大会4位、個人では準優勝を達成できました。」

本当は大した実績ではなくても、面接官からはわからない場合がありますのでできるだけ数値や名称をいれましょう。

例

A「文化祭で大道具の係を担当しました」

B「文化祭で演劇の大道具の係を担当しました。～～という困難がありましたが、同級生や後輩をまとめて努力しました。その結果、最終的には2日間で250名以上のご来客をいただき、先生からも〇〇がよかったとお褒めの言葉をいただきました。」

(他の演目は1000人以上の来客があるので実は大したことない)

実績がどうしても見つからない人は、嘘はいけません、多少エピソードを工夫して具体的に回答するようにしましょう。

(苦労した話、自分なりに努力した話、どれだけ小さい実績でもしっかり回答するなど)

②地域性が強い大学を受験する場合

地方国立医学部や地方私立医学部など、地域性が強い大学の面接を受験する場合は、「どうしてこの県を受験したのか」と聞かれることが多いので、その都道府県について調べておきましょう。

特に「その県の医療問題」と「県が行っている取り組み」をネットで調べておくと回答しやすくなる印象です。

コツは、その都道府県の具体的な地域名を回答すると、「よく調べている」と思ってくれやすくなります。

例「〇〇県では、特に西部の〇〇地区、南部の〇〇地区において医療不足が進んでいると拝読しました。」など

また、具体的な数値も調べておいて、回答できるとよいと思います。

例「〇〇県では人口10万人あたりの医師数が〇人と、全国の都道府県で〇番目に医師不足となっています。」など

▽願書、小論文対策実践編

①字数を稼ぐコツ

800字や1000字以上になると、いきなり書こうとすると字数が足りなくなって困ってしまいます。

まずは、「目次」を簡単につくることが大切です。

例えば、「医療におけるAIの導入について1600字以内で書く」というテーマであれば、下記のように目次を作成します。

- 1 背景と結論(AI導入に賛成) 200字
  - 2 賛成の理由① 400字
  - 3 賛成の理由② 400字
  - 4 デメリットや懸念点について 400字
  - 5 結論とまとめ 200字
- (合計1600字)

このように目次で整理すると、あとはそれぞれの目次を目安の字数で書くことができます。

目次を整理せずにいきなり書き出してしまうと、途中でネタ切れを起こしてしまうのが一番の失敗理由です。

そのため、200-400字を1ブロックの目安として、指示された字数に応じて目次のブロックを調整することがコツです。

例 400字以内:1~2ブロック

例 800字以内:2~3ブロック

例 1200字以内:3~4ブロック

など

②400字以内で書く練習をしておく

①のようにブロックでわけて整理するコツさえつかんでおけば、あとは普段の小論文の対策としては、「400字以内で書く練習」をしておきましょう。

400字で書くことができれば、①の容量でブロックを調整したり、200字に減らしたりすることで、何字の指定であっても柔軟に対応できるようになります。

▽賛否が問われるテーマについて

面接でも小論文でも、賛否が問われたり、意見がわかるテーマが出題されることは少なくありません。

例「医療におけるAIやオンライン診療の導入についてどう思うか」

例「医師の働き方革命についてどう思うか」

例「ゲノム編集、出生前診断、安楽死についてどう思うか」

このような賛否が問われるテーマで最も重要なことは、「自分と反対側の意見にも配慮して回答すること」です。

よくない回答は、どちらか一方の意見に偏りすぎた強い主張をしてしまうことです。

面接でも小論文でもテンプレートはこのような回答になりますので真似するとよいでしょう。(かなり簡略化して記載しているのでテンプレートの型のみ参考にしましょう)

例1「AIの導入についてどう思うか」

- 1 結論:私はAIの導入について賛成です。
- 2 AIを導入するメリット
- 3 AIを導入する懸念点やデメリット
- 4 結論:このような懸念点に注意する必要がありますが、導入するメリットがあると考えます。そのため、私はAIの導入について賛成です。

例2「安楽死の導入についてどう思うか」

- 1 結論:私は安楽死の導入について反対です。
- 2 安楽死を導入する懸念点やデメリット
- 3 安楽死を導入するメリット
- 4 結論:このような状況では、安楽死を導入することのメリットが考えられ、希望される方もいらっしゃると思います。しかし、私は安楽死を導入することによる懸念点やデメリットが大きいと考えるため、私は安楽死の導入について反対です。

*コツ

ちょっとしたコツですが、「すでに導入されているものは賛成」「導入されていないものは反対」をしておくと答えやすいと思います。

例 オンライン診療 → 賛成する

例 安楽死 → 反対する

▽面接小論文対策(基礎編)

▽面接小論文対策のウソの情報、誤った思い込み7選

- ①医学部は面接小論文対策を十分行うことが大切だと思いこんでいる
- ②大学ごとの面接小論文の対策をすることが大切だと思いこんでいる
- ③医療知識を習得することが大切だと思いこんでいる

- ④部活動や課外活動、ボランティアをすること、英検などの資格を取得することが大切だと思いこんでいる
- ⑤面接が苦手な人は面接の配点が少ない大学を受験することが大切だと思いこんでいる
- ⑥現役生は有利、浪人生や再受験生は不利だと思いこんでいる
- ⑦面接小論文対策を全く行っていない

▽面接小論文対策のよくある失敗例

医学部受験は面接小論文対策を十分行うことが大切だ、と思い込む

- 秋頃から学校や予備校の「面接小論文対策の講座」を受け、大量の時間を使う
- さらに大学別の面接小論文の情報を調べることに時間を使う
- 英数理の基礎を習得、復習する時間が足りない
- 基礎に抜けがある状態で共通テスト本番を迎える
- 共通テストがとれず国立医学部は推奨校が出ずに詰んでしまう、足切りにあう
- 私立医学部の学科試験がとれず一次試験に全滅する
- 一度も面接小論文の試験の機会すらないまま、受験が終了する

▽ネットや世間の情報は間違っていることが多い！

→振り回されると受験生が損をしてしまう

* 2022年卒業生の例

ネットやYoutubeで、慈恵会医科大学は「2浪以上は合格できない」といわれていた。

→4浪の生徒様、再受験(20台後半)の生徒様が慈恵医大に合格
「ネットなどの情報をシャットアウトすることが大切」

無責任な情報を発信している人は、責任をとってくれない

→誤った情報に振り回されると受験生や保護者様が損をする

* 卒業生の例(3浪目でエースアカデミー入塾)

- ・1浪目のときに国際医療福祉大学医学部に面接で不合格になっていた
- ・2浪目のとき、大手予備校に通ったところ、先生から「1浪目で面接で不合格になっているから、受験しても意味ない」と言われ受験しなかった
- ・3浪目でエースアカデミーに入塾。上記の相談をされたが、準備をすれば関係ないことを伝え受験した。
- ・結果→3浪目で国際医療福祉大学医学部に「正規合格」
(国立医学部にも合格した)

誤った情報に振り回されると受験生が損をしてしまう
詰んでしまう危険も！
(合格可能性があるのに不合格になってしまう)

▽二次試験不合格の原因

例

私立医学部一次試験15校を受験
一次試験1~2校に通過(14校は学科試験で不合格)

→二次試験は繰り上げにならず

→面接小論文ではなく、学科試験が少し足りなかったと判断すべき
ほとんどがこのパターン

▽面接小論文で不合格になった例

・欠席日数が多い

2025年 50日以上欠席

→ある医学部で不合格になったが、国立医学部、私立医学部あわせて5校以上に合格

→面接小論文によって医学部の進学ができなかった人は直近5年間でもほとんどいない。

▽なぜ面接や小論文対策が重要だと誤解されているか？

・学校の先生の指導

→よくわかっていない先生も多い？

・予備校の対策講座

→講座の受講生を合格実績に含める予備校が多い

(合格実績の水増し)

* 国立医学部の講座受講生を予備校の実績に含める例

通常は・・

- ・共通テスト
- ・二次試験-学科試験
- ・二次試験-面接小論文

をすべてクリアして国立医学部に合格！（大変）
（面接小論文の合否への影響はほとんどない）

国立医学部の面接小論文対策講座だけの受講生を実績に含めると、
→30人講座を受講すれば、確率的に10人以上は合格
→実績に含めることができる！
（その受講生の私立医学部の実績もすべて水増ししていることも。。）

面接や小論文対策が重要と誤解されている理由

面接小論文対策の講座の受講生を合格実績に含めると、予備校としてのメリットが非常に大きい

→「医学部は面接小論文が重要だ！」と言わないと、講座を受講してくれない

→面接や小論文対策が重要だと誤解されている

▽面接小論文で最も重要なこと

面接小論文は医学部合格において重要ではありません。

論理的に考えれば誰でもわかることです。

国立医学部は、共通テストに加えて個別の学科試験があり、多くの大学では1500点前後の配点があります。当然、共通テスト+学科試験で合否はほとんど決まります。
（特に国立医学部は、面接小論文はほとんど合否に影響していません）

共通テストには足切りもあり、足切りにあうと面接や小論文の機会すら与えられません。

私立医学部は、そもそも学科試験である一次試験に通過しないと面接の機会すら与えられません。（小論文も採点すらしてくれません）

学科試験より面接小論文を優先している人は、ずっと詰んでいる状態です。

実際に、エースアカデミーで、「面接小論文によって不合格になった」とはっきり言える生徒様は、ほとんどいません。

▽面接や小論文対策のよくある間違い

①面接や小論文対策に時間をかけすぎる

医学部のほとんどの大学は学科試験で合否が決まっています。

私立医学部では学科試験に通過しないと面接や小論文採点の機会すら与えられないため、面接や小論文対策に時間を割いて学科試験対策が疎かになるのは本末転倒です。

国立医学部では共通テストと個別学科試験が配点の大部分を占めていること、共通テストで足切りもあることなどを考えると、やはり学科試験が重要であることは当然です。

(大学にもよりますが、むしろ国立医学部の方が学科試験で決まっている大学が多いです。)

②全く準備をしない

ほとんど学科試験で決まるものの、面接で不合格になる場合もあります。

ネットでは「多浪生や再受験生は、学科試験で高得点をとるべきだ」という噂がありますが、全くの嘘です。

不合格になる場合は、面接で一発不合格になり、学科試験が関係ない場合があります。

そもそも現役生でも不合格になる場合もちろんあります。

全く準備をしないのもよくないので、エースアカデミーで行っている、必要十分な準備を行いましょ

③面接の試験内容や配点で受験校を決める、各大学の情報を求める

面接の試験内容や配点で受験校を決めるのは最悪の方法なので絶対にやめましょう。

また、合否への影響がわからない以上、各大学の情報をどれだけ求めても意義はありません。

「面接ができなくても合格しやすい大学を教えてください」とよく聞かれますが、答えはわかりません。

実際に、ほとんど面接に力を入れていないように見える大学でも面接で不合格になることはありますし、面接の内容がとても複雑に見えるけど、ほとんど合否に影響していないこともあります。

欠席日数が同じくらい多い生徒様で、同じ大学を受験して、ある生徒様は合格しているけど、ある生徒様は不合格になった、ということもよくあります。

④年齢や性別を気にしすぎている

ネットにあるような情報はほとんど間違えていますので注意しましょう。

年齢や性別で受験校を変更することは自身の合格可能性を大きく下げることになるため、絶対にやめましょう。

エースアカデミーでお送りする推奨校に従いましょう。

⑤面接の配点が高い、試験内容が複雑 = 面接重視と思い込んでいる

面接の配点が高い=面接重視という考えは、全くの誤りです。
実際は、面接の配点が高くても、結局ほとんど差がつかない大学も多く存在します。
逆に、配点はなくても面接で不合格になる大学もあります。

⑥課外活動やボランティア、オープンキャンパスへの参加が重要だと思いこんでいる

全くといっていいほど、合否に関係ありません。
オープンキャンパスへの参加は合否に全く関係ありません。

⑦受験校を増やそうとしない

合格可能性をあげるために最もすべきことは、「受験校を増やすこと」です。
効果があるかわからない「個別の大学の面接小論文の対策」にどれだけ時間をかけても合格可能性は変わらず、受験校を減らすと合格可能性は確実に下がります。

特に調査書や面接に不安がある人は、各大学の情報を調べるのではなく、「受験校を増やす」ことが最も有効な方法になります。

▽面接小論文のよくある質問と回答

* 0-100思考や世間の噂ではなく、「割合」「論理」で考える

「○○は重要ですか？」とよく聞かれますが、
結論は「わかりません」。

当然ですが、面接だけではなく学科試験も含めて総合的に合否は判断されます。

また、面接試験自体においても、願書、調査書、面接の回答、態度など、総合的に判定されます。

そのため、一つだけを切り取って「○○が重要！」ということは論理的に絶対にできません。

例えば、欠席日数についても、欠席日数が50日以上あっても5大学以上に合格した生徒様もいますが、一方で欠席日数0日の皆勤であっても合格できない医学部受験生は世間にはたくさんいます。

同様に、世間では「多浪生、再受験生」などが不利になると噂されていますが、実際は現役生でも面接で不合格になることはもちろんあります。

塾生に常に伝えているとおり、「割合」「論理」を考えることが重要で、決して「0-100思考」にならないようにしましょう。

*「聞かれる」からといって合否に影響しているかはわからない

面接で「聞かれる」からといってそれが合否に影響しているとは限りません。
(試験に「出題される」からといって、合否に影響しているとは限らないのと同じ)

ただ、聞かれる可能性が高い質問は、回答を準備しておくのがよいといえます。

* 調査書、欠席日数や遅刻回数について

・面接で最も重視されている印象があるのが調査書です。

その中でも、欠席日数が多い場合は、面接で聞かれることが多いため、重視されている印象があります。

ただ、欠席日数が多い＝不合格 ではありません。

実際に、2025も、高校の欠席日数が50日以上と多い浪人生の生徒様がいましたが、5校以上に二次合格されました。

精神的や身体的なご病気があって長期間欠席していた生徒様も、これまで多くが医学部に合格されています。

ただ、やはりほとんどの医学部で欠席が多いことについて質問されていたため、その回答を準備しておくことが大切です。

・遅刻回数は、高校によっては調査書に載っていない場合も多くあまり聞かれないことも多い印象です。ただ、遅刻回数が多い人は聞かれたときのための準備をしましょう。

* 欠席日数や調査書に不安がある人の回答例

①原因をしっかり回答する

例 体調不良や病気があるなど、やむを得ない理由がしっかりある場合は、そのまま伝えることでマイナス評価にならないことも多い

②反省と改善をしていることを伝える

例 通院や治療を行うことで、現在では症状がコントロールできています。その結果、高3の後半では欠席することなく登校することができました。

例 当時は自分の未熟さから、受験のための勉強を優先してしまい学校を欠席してしまうことがありました。

しかし、浪人をする中で、自分のやるべき当たり前のことを継続する大切さに気づき、反省をしております。

浪人中は、予備校の授業は一度も欠席せず、また課題や提出物は一度も遅れることなく期限内に提出できています。

・浪人年数によってはそもそも調査書の発行ができないこともあります。
当塾から7浪や8浪で合格されたり、30代、40代で合格された生徒様も多くいらっしゃいますので、調査書が合否に決定的に影響しているわけではありません。

・学校の評定は、それほど重視されていない印象です。
赤点である場合や著しく悪い教科がある場合は面接で聞かれることがあります。
ですが、聞かれるからといって合否への影響は不明です。

・英語の資格試験、ボランティアや課外活動、部活動、オープンキャンパス

合否にはほとんど全く関係ありません。
面接で聞かれることはありますが、合否への影響はほぼないといえます。
それよりも欠席日数や調査書を重視されている印象です。